

# 吉野川講座

## Road to 「よいよい吉野川づくり」



Road to 「よいよい吉野川づくり」 もいよいよステージ4の旅に突入します。今回の旅のテーマは「河川本来の自然環境を有する吉野川の再生」。治水や利水、景観づくり等によって、人々は川と深くかかわっています。そして、そのかわりには、吉野川に生息する動植物にも影響を与えることとなります。 この旅では、動植物と吉野川とのかわりに目を向けて、吉野川水系河川整備計画を学んでいくことにしましょう。

### 「よいよい吉野川づくり」への道のり



### 「河川本来の自然環境を有する吉野川の再生」の理念

吉野川に残る良好な自然環境や景観を保全するとともに、近年失われつつある吉野川が本来有するレキ河原\*や水際のなだらかな連続性（エコトーン\*）、清らかな吉野川の流水など自然環境の再生を図るための施策を展開する。

（吉野川水系河川整備計画【変更】P97 抜粋）

※用語集（P20）参照

## ▶ステージ 4：河川本来の自然環境を有する吉野川の再生-1

### 1. 吉野川はさまざまな動植物の生息地



ステージ 3 (Vol.42、43) では、吉野川の美しい景観について学びました。私たちが川とともに暮らしているように、さまざまな動植物も川と関わりながら生息しています。ステージ 4 では、吉野川水系河川整備計画を学ぶ上で欠かせない、動植物について 3 回に分けて学んでいきたいと思ひます。さて、みんなは吉野川にどんな動植物がいるか知っているかな？

川遊びをした時、魚や虫を見つけました！すばしっこくてなかなか捕まえられなかったけど楽しかったです。周りでは、鳥の鳴き声も聞こえていました。



魚や虫はちょっと苦手ですが、鳥の鳴き声を聞いたり、かわいらしい花を探したりするのが好きです。



そうですね。魚、虫、鳥、草花など吉野川にはたくさんの動植物が生息しています。では、それらは吉野川のどんな所にいるのでしょうか？  
まずは、吉野川はどんな特徴のある川なのかを見ておきましょう。



#### 上流（源流～池田）

山間を流れ、大歩危・小歩危で溪谷を形作り、河床勾配は 1/400 と急峻



#### 旧吉野川・今切川

河口堰の上流は淡水域で緩やかな流れとなっており、ワンド\*・よどみ等のある多様な河川環境を有している。



#### 源流・瓶ヶ森



#### 中流（池田～岩津）

谷底平野が形成され、河床勾配は 1/800 程度と緩くなる。



#### 下流（岩津～河口）

河床勾配は 1/1,100 程度の緩流になる。河口部は河川及び海からの影響を受ける汽水域という特有の環境がある。









※用語集 (P20) 参照



それでは、吉野川でみることができる動植物として、今回は魚、鳥、植物を紹介します。今でもよく見ることができるもの、環境の変化とともに見ることが難しくなった貴重なもの、それぞれ見てみましょう。

## 2. 吉野川に生息する魚たち

### 吉野川で見られる魚

カワムツ	カワヨシノボリ	ウグイ
		
コイ目コイ科 緩やかな流れの淵*などの場所に生息し、吉野川では中流～上流域でみられる	スズキ目ハゼ科 日本にだけ生息する固有の亜種で、吉野川では中流～上流域、支流などでみられる	コイ目コイ科 四国の瀬戸内川など一部を除く日本全国に分布し、吉野川では上流～下流でみられる
アユ	マハゼ	スズキ
		
キュウリウオ目キュウリウオ科 海と川を旅する回遊魚で、吉野川では広範囲に生息しており、上流～下流域でみられる	スズキ目ハゼ科 湾内や河口の汽水域にすんでおり、吉野川では河口近くの汽水域でみられる	スズキ目スズキ科 吉野川では春から夏にかけて河口近くの汽水域でみられる 冬には海に出る回遊魚

※用語集 (P20) 参照



吉野川の魚の特徴は、半数以上が河口域～下流域の汽水域で多く確認されているヒイラギやボラ等の汽水・海水魚です。次いで、中流～下流域に位置する淵や淡水域に主に生育している、オイカワを初めとする淡水魚が全体の約3割ほどです。また、アユやヨシノボリ類（シマヨシノボリ、オオヨシノボリ、カワヨシノボリ）に代表される通し回遊魚（淡水と海水を行き来する魚）が約1割程度生息しています。

### 今ではなかなか見られない貴重な魚



タカハヤ



ミナミメダカ



アカザ



イチモンジタナゴ

(関連記事「Our よしのがわ」Vol.8)

### 3. 吉野川で見られる鳥たち

#### 吉野川で見られる鳥

マガモ	カワラヒワ	コサギ
		
カモ目カモ科 主に冬鳥として全国で見られる 吉野川流域では、主に河口から下 流域の水深の深い流れの緩やかな 水域で見られる	スズメ目アトリ科 留鳥または漂鳥として九州以北に 分布し、吉野川流域では、樹林地 近郊で見られる	コウノトリ目サギ科 干潟から河川、水田、湿地、湖沼 などに広く生息し、吉野川流域で は、全域で見られる
ツグミ	ユリカモメ	カワセミ
		
スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科 冬鳥または旅鳥として全国に渡来 し、吉野川流域では、近くに樹林 地のある耕作地や草地で見られる	チドリ目カモメ科 冬鳥として全国で見られる 海岸、干潟、河口、港のほか湖沼 や河川、水田などの湿地帯でもみ られる	ブッポウソウ目カワセミ科 本州から南に広く分布 吉野川流域では、河口部を除く全 域で見ることができる



吉野川には、竹林やレキ河原※、河口では広大な干潟の環境があるため、いろいろな種類の野鳥が生息しています。特に河口干潟は、渡り鳥の重要な中継地となっています。渡り鳥の多くは冬鳥（秋に渡来して、その地方で越冬する野鳥）ですので、これからの季節は鳥を観察するのにいいかもしれませんね。

また、平成 27 年にコウノトリ、平成 28 年にナベツルの飛来が確認されるなど、鳥にとって吉野川流域が大切な環境であることがよくわかりますね。

#### 今ではなかなか見られない貴重な鳥

※用語集（P20）参照



ヤマセミ



ダイシャクシギ



コアジサシ









ツクシガモ

（関連記事「Our よしのがわ」Vol.21）

## 4. 吉野川に生息する植物たち

### 吉野川で見られる植物

ブナ	アカメヤナギ	ヨシ
		
<p>ブナ科                      湿潤で肥沃な山地に生える                      吉野川では源流周辺の瓶ヶ森自然休養林で見られる</p>	<p>ヤナギ科                      平野部の大きな川沿いなどの水辺に生える                      吉野川では第十堰の上流側～中流域まで広く河原、水際で見られる</p>	<p>イネ科                      河口の汽水域から淡水域まで水辺で普通にみられ、吉野川では河口～第十堰に分布している                      秋には茎の先に絹のような毛がある穂をつける</p>
センダン	コウボウムギ	キクモ
		
<p>センダン科                      河岸によくみられる落葉樹で、吉野川では第十堰の上流～中流域、堤防付近や山付き部などの安定した場所で見られる</p>	<p>カヤツリグサ科                      北海道西南部～本州・四国・九州に分布している                      吉野川では河口の海浜砂州で見られる</p>	<p>ゴマノハグサ科                      北海道以外の日本全域に分布                      田んぼや湿地などを好み、吉野川では高瀬橋周辺のタマリなど、凹地形、水たまり部で見られる</p>



吉野川の語源として「まだ人があまり住んでいなかった太古の昔から、この平野には植物のヨシ、アシが広くおおっていたと言われます。人々はそれを見てヨシのはえている川“ヨシの川”と唱えはじめました。」という説があるほど、とても広い川原にヨシやオギの広い原っぱがあることが、吉野川の植物の特徴です。また、河口の砂州には砂浜や砂丘に生える植物、第十堰の上流側や旧吉野川にはヒシなどの水草、中流域の川沿いに竹林を見ることができます。

### 今ではなかなか見られない貴重な植物



カワラサイコ



イセウキヤガラ



カワヂシャ



ミヤコアオイ

吉野川にはいろいろな魚、鳥、植物がいることが分かりました。  
でも、どうしてたくさんの生き物について調べるのですか？



吉野川の自然が変わっているのか、維持されているのかなどを調べるためです。  
川の様子や動植物を調べて『見える化』しているのが「河川水辺の国勢調査」です。  
日本では、国内の人口や世帯などの実態を明らかにするために5年ごとに実施される  
国勢調査がありますが、その生物版とも言えます。

## 5. 河川水辺の国勢調査

### 調査の目的

河川環境の整備と保全を適切に推進するため、定期的、継続的、統一的な河川環境に関する基礎情報の収集を図ることを目的とした調査です。

この調査結果は、瀬・淵\*の分布状況や生物の確認状況等を表示した河川環境情報図としてとりまとめ、河川整備計画等を検討する際の参考とするとともに、河川工事等を行う際の自然環境への配慮事項の検討に利用されます。

※用語集（P20）参照

### 調査項目

生物調査は「魚類調査」「底生動物」「鳥類」「両生類・爬虫類・哺乳類」「陸上昆虫」「植物」の6項目、そのほか、河川空間の利用者などを調査する「空間利用実態調査」、河川の瀬・淵や水際部の状況等を調査する「河川環境基図調査」の計8項目を調査しています。

なお、調査は、マニュアルに基づいて実施されていて、調査実施の頻度は、調査項目により、5年または10年に1回となっています。今回紹介した魚類、鳥類、植物は以下の通りです。

- 魚類.....5年に1回
- 鳥類、植物.....10年に1回

河川水辺の国勢調査の結果は国土交通省のウェブページで公開しています



<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/gaiyou.htm>

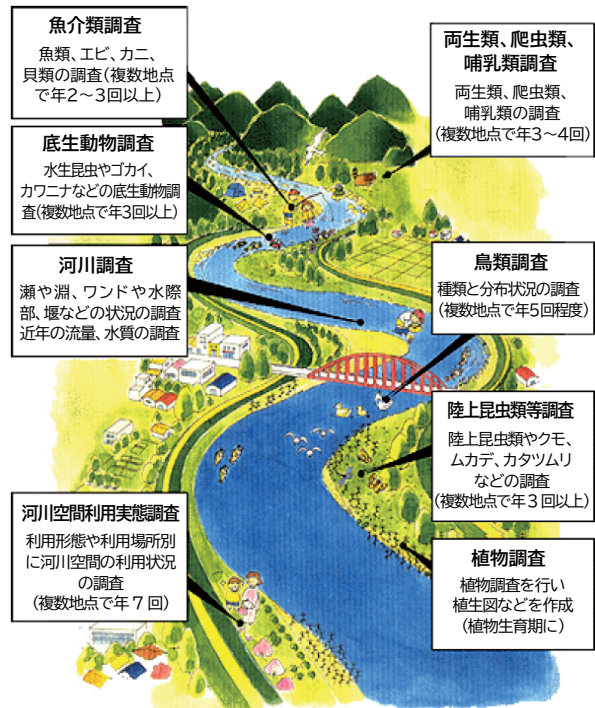


図 1.河川水辺の国勢調査実施のイメージ

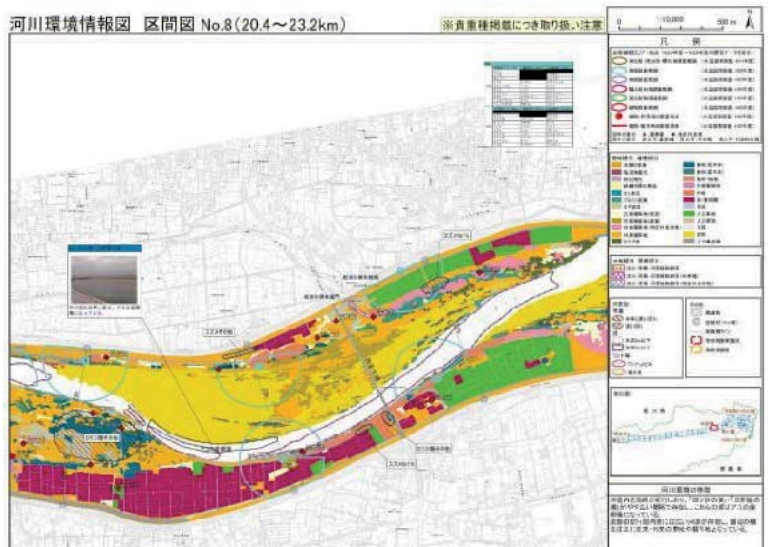


図 2.河川環境情報図による取りまとめイメージ

調査は、年数回、複数個所で目視や捕獲などにより行われています。



▲魚類調査（潜水観察）

▲魚類調査（投網）

▲鳥類調査（双眼鏡等による観察）

▲植物調査（目視確認）

大変な作業ですね。でも、この地道な調査によって吉野川の自然が理解でき、自然に配慮しながら、私たちの生活を守るための河川整備などができるとい事につながっていくのですね。とっても大切な取組だと思います。



そうですね。河川水辺の国勢調査は河川の状態を知るための調査で、それをどう活用するか、ということがさらに重要になります。

吉野川水系河川整備計画では、吉野川本来の自然環境を守り、より良好な水際環境の保全に努めるため、「河川環境の整備と保全に関する目標」を定め、この中で河川水辺の国勢調査の情報を活用するという事を明記しています。

今回の学習の最後に、この内容を確認しておきましょう。



### 河川環境の整備と保全に関する目標

- **河川環境情報図等の基礎情報を活用しながら**、治水・利水・河川利用との整合性を図りつつ **良好な自然環境の保全に努める**
- **洪水による河道状況の変化や外来生物の侵入等**、さまざまな要因で変化していく自然環境について、**モニタリング等により重要種の分布状況も含めて把握し評価する**
- 必要に応じて自然再生事業やその後のモニタリング等にあたっては、**関係機関、地域住民等と連携しながら行う**
- 河川工事等の際には、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、**河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観の保全・創出を基本とする「多自然川づくり」に努める**

（「吉野川水系河川整備計画【変更】」P104）

新しいステージ 4 の旅、今回は吉野川に生息する動植物に注目して吉野川の自然環境を学びましたが、お楽しみいただけましたか。次回からは「河川環境の整備と保全に関する目標」に沿って実施されている取組について、具体的に学んでいきます。

今年の秋は、季節の移り変わりとともに川辺で見られる動植物にも変化があるのか、観察してみたいかがでしょうか。



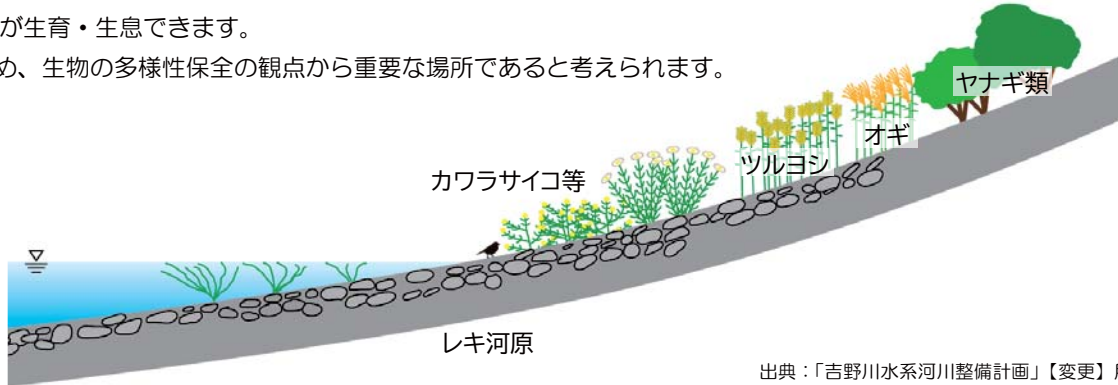


## 吉野川講座 Road to「よりよい吉野川づくり」用語集

### ●エコトーン（移行帯または推移帯）（いこうたいまたはすいいたい） P13

異なる環境が連続して変化していく場所のことで「推移帯」とも呼ばれ、ここでは川岸の水際がなだらかな様子を表しています。特徴としては、陸域から水域へかけて環境が連続して変化しているため、比較的限られた空間の中でいろいろな生物が生育・生息できます。

このため、生物の多様性保全の観点から重要な場所であると考えられます。



出典：「吉野川水系河川整備計画」【変更】用語-34

### ●瀬・淵（せ・ふち） P15、18

瀬は水深が浅く、流れが速く、白波が立つ所であり、淵に比べて生物生産力が高いため、魚の餌場として利用されることが多い所です。一方、淵は水深が深く、流れが緩やかなため、魚の休み場等として利用されます。

（「Ourよしのがわ」Vol.39、P20にイラスト付き解説掲載）

出典：国土交通省 国土技術政策総合研究所「河川用語集」

### ●レキ河原（れきがわら） P16

河川敷が広く、頻繁に増水し洪水等の流れの作用を受けやすい場所は、礫（小さい石）や砂礫からなる河原（レキ河原）が広がり、植物がまばらに生息します。

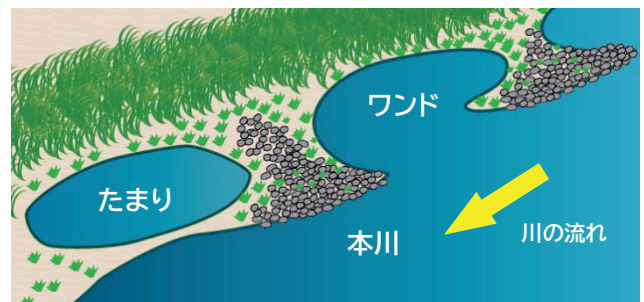


出典：「吉野川水系河川整備計画」【変更】用語-34

### ●ワンド（わんど） P14

ワンドは、川の本川とつながっている水がよどむところです。一方、たまりは、本川とつながっていない水の入れかえが少ないところです。

流れがある本川に比べ、魚や昆虫など様々な生物が多く生息しています。ワンドは、魚の産卵や成育の場であり、増水した時には、魚の避難場所となります。



出典：国土交通省 国土技術政策総合研究所「河川用語集」

徳島河川国道事務所ウェブページの「川の生き物図鑑」では、今回の吉野川講座の中で紹介した魚・鳥・植物を含め、吉野川に生息する生き物を紹介しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/river/profile/ikimono/zukan/zukan.html>

遊びに来てくださいね！

